

当院採用薬の抗菌スペクトル表（水色の範囲が感受性あり）

2025年10月 初版

当院で採用されている抗菌薬（外用薬を除く）に対して、一般的に有効（水色で塗りつぶした範囲）とされている細菌のスペクトル表を作成いたしました。外用薬に関しましては、各種ガイドライン等をご参照ください。  
抗菌薬選択に際しましては、各種培養の薬剤感受性や最新のアンチバイオグラム（電子カルテ掲示板）をご参照ください。最終頁に示す当院採用薬はスペクトルが不明なため記載しておりません。予めご了承ください。

1) 腸球菌の中でも、 <i>Enterococcus faecalis</i> に対する感受性を示しています。 <i>Enterococcus faecium</i> は多剤耐性であることがあるため、各種培養の薬剤感受性結果を基に、バンコマイシン（最終頁）などをご確認ください。													
2) 黄色ブドウ球菌（ <i>Staphylococcus aureus</i> ）の中でも、メチシリン感受性株（MSSA）に対する感受性を示しています。メチシリン耐性株（MRSA）は各種培養の薬剤感受性結果を基に、抗MRSA薬（最終頁）などをご確認ください。													
3) 連鎖球菌： <i>Streptococcus</i> spp.（spp.は”属”の意） / 肺炎球菌（肺炎レンサ球菌）： <i>Streptococcus pneumoniae</i>													
4) PEK： <i>Proteus mirabilis</i> , <i>Escherichia coli</i> （大腸菌）, <i>Klebsiella</i> spp. の略称。 （spp.は”属”の意）													
5) Non-PEK：PEK以外の腸内細菌目細菌のこと。 <i>Enterobacter</i> spp., <i>Serratia</i> spp., <i>Citrobacter</i> spp., <i>Providencia</i> spp., <i>Morganella</i> spp.など（ESCPMと略されることもある）。 （spp.は”属”の意）													
6) 緑膿菌： <i>Pseudomonas aeruginosa</i>													
7) 嫌気性菌の中でも、 <i>Bacteroides</i> spp. に対する感受性を示しています。 （spp.は”属”の意）													
8) HaM： <i>Haemophilus influenzae</i> （グラム陰性桿菌）と <i>Moraxella catarrhalis</i> （グラム陰性球菌）の略称。													
9) AWARe（アウェア）分類：世界保健機関（WHO）が定めた医療に必須の医薬品※のうち、抗菌薬に関し、薬剤耐性の影響を考慮し、適正使用推進を目指したツールの1つ。抗菌薬の使用を最適化するための目標を定めたり、モニタリングすることに役立つ。 ※医薬の入手が困難な開発途上国における入手しやすさも考慮して選定された、基本的な医療に最小限必要な医薬品選定の際の指標。													
Access（アクセス）		：一般的な感染症に第一選択または第二選択として使用される薬剤。多くの患者に安全かつ効果的に使用でき、高品質、低コストで利用できる他、耐性化しても他の選択肢があるため、耐性化した際の不利益が少ない。											
Watch（ウォッチ）		：耐性化した際に取り得る他の選択肢が少ないため、限られた疾患や適応にのみ使用が求められる薬剤。不適切な使用が臨床上重要な薬剤耐性菌の急速な拡大につながる可能性がある。											
Reserve（リザーブ）		：耐性化した際に取り得る他の選択肢が非常に少ないため、他の手段が使えなくなった場合の最後の手段として使用するべき薬剤。											
N/R（Not recommended）		：使用が推奨されていない薬剤。											

分類	系統	略語	一般名	商品名（採用薬）	剤形	AWaRe 分類 <sup>9)</sup>	グラム陽性球菌（GPC）			グラム陰性桿菌（GNR）			
							腸球菌 <sup>1)</sup>	黄色 ブドウ球菌 <sup>2)</sup>	連鎖球菌 <sup>3)</sup> 肺炎球菌 <sup>3)</sup>	腸内細菌目細菌		緑膿菌 <sup>6)</sup>	嫌気性菌 <sup>7)</sup>
										PEK <sup>4)</sup>	Non-PEK <sup>5)</sup>		
βラクタム系 （ペニシリン系）	天然 ペニシリン	PCG	ベンジルペニシリンカリウム （100万単位中のK：1.53mEq）	ペニシリンGカリウム	注	Access							
	アミノ ペニシリン	ABPC	アンピシリン	ピクシリン	注	Access				P <sup>4)</sup> のみ			
		AMPC	アモキシシリン	アモキシシリン	カプセル	Access				P <sup>4)</sup> のみ			
	抗緑膿菌活性 ペニシリン	PIPC	ピペラシリン	ピペラシリン	注	Watch							
	βラクタマーゼ 阻害剤配合薬	SBT/ABPC	スルバクタム/アンピシリン （1:2）	スルバシリン	注	Access							
			スルタミシリン （スルバシリンのプロドラッグ）	ユナシン （院外専用）	錠	Access							
				ユナシン小児用 （院外専用）	細粒	Access							
		CVA/AMPC	クラブラン酸/アモキシシリン （1:2）	オーグメンチン	錠	Access							
			クラブラン酸/アモキシシリン （1:14）	クラブモックス小児用 （院外専用）	ドライ シロップ	Access							
		TAZ/PIPC	タゾバクタム/ピペラシリン （1:8）	タゾピペ	注	Watch							

ご不明な点は薬剤課（内線：1131、1133）上堀（かんぼり）へご連絡ください。

当院採用薬の抗菌スペクトル表（水色の範囲が感受性あり）

2025年10月 初版

当院で採用されている抗菌薬（外用薬を除く）に対して、一般的に有効（水色で塗りつぶした範囲）とされている細菌のスペクトル表を作成いたしました。外用薬に関しましては、各種ガイドライン等をご参照ください。

抗菌薬選択に際しましては、各種培養の薬剤感受性や最新のアンチバイオグラム（電子カルテ掲示板）をご参照ください。最終頁に示す当院採用薬はスペクトルが不明なため記載しておりません。予めご了承ください。

1) 腸球菌の中でも、*Enterococcus faecalis* に対する感受性を示しています。*Enterococcus faecium* は多剤耐性であることがあるため、各種培養の薬剤感受性結果を基に、バンコマイシン（最終頁）などをご確認ください。

2) 黄色ブドウ球菌（*Staphylococcus aureus*）の中でも、メチシリン感受性株（MSSA）に対する感受性を示しています。メチシリン耐性株（MRSA）は各種培養の薬剤感受性結果を基に、抗MRSA薬（最終頁）などをご確認ください。

3) 連鎖球菌： *Streptococcus* spp.（spp.は”属”の意） / 肺炎球菌（肺炎レンサ球菌）： *Streptococcus pneumoniae*

4) PEK： *Proteus mirabilis*, *Escherichia coli*（大腸菌）, *Klebsiella* spp. の略称。（spp.は”属”の意）

5) Non-PEK：PEK以外の腸内細菌目細菌のこと。*Enterobacter* spp., *Serratia* spp., *Citrobacter* spp., *Providencia* spp., *Morganella* spp.など（ESCPMと略されることもある）。（spp.は”属”の意）

6) 緑膿菌： *Pseudomonas aeruginosa*

7) 嫌気性菌の中でも、*Bacteroides* spp. に対する感受性を示しています。（spp.は”属”の意）

8) HaM： *Haemophilus influenzae*（グラム陰性桿菌）と *Moraxella catarrhalis*（グラム陰性球菌）の略称。

9) AWARe（アウェア）分類：世界保健機関（WHO）が定めた医療に必須の医薬品※のうち、抗菌薬に関し、薬剤耐性の影響を考慮し、適正使用推進を目指したツールの1つ。抗菌薬の使用を最適化するための目標を定めたり、モニタリングすることに役立つ。

※医薬の入手が困難な開発途上国における入手しやすさも考慮して選定された、基本的な医療に最小限必要な医薬品選定の際の指標。

Access（アクセス）	：一般的な感染症に第一選択または第二選択として使用される薬剤。多くの患者に安全かつ効果的に使用でき、高品質、低コストで利用できる他、耐性化しても他の選択肢があるため、耐性化した際の不利益が少ない。
Watch（ウォッチ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が少ないため、限られた疾患や適応にのみ使用が求められる薬剤。不適切な使用が臨床上重要な薬剤耐性菌の急速な拡大につながる可能性がある。
Reserve（リザーブ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が非常に少ないため、他の手段が使えなくなった場合の最後の手段として使用すべき薬剤。
N/R（Not recommended）	：使用が推奨されていない薬剤。

分類	系統	略語	一般名	商品名（採用薬）	剤形	AWaRe 分類 <sup>9)</sup>	グラム陽性球菌（GPC）			グラム陰性桿菌（GNR）			
							腸球菌 <sup>1)</sup>	黄色 ブドウ球菌 <sup>2)</sup>	連鎖球菌 <sup>3)</sup> 肺炎球菌 <sup>3)</sup>	腸内細菌目細菌		緑膿菌 <sup>6)</sup>	嫌気性菌 <sup>7)</sup>
										PEK <sup>4)</sup>	Non-PEK <sup>5)</sup>		
βラクタム系 （セフェム系）	第1世代 セファロスポリン系	CEZ	セファゾリン	セファゾリン	注	Access							
	第2世代 セファロスポリン系	CTM	セフォチアム	セフォチアム	注	Watch					& HaM <sup>8)</sup>		
		CCL	セファクロル	ケフラール	カプセル	Watch					& HaM <sup>8)</sup>		
	第3世代 セファロスポリン系	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン	注	Watch							
		CAZ	セフトジジム	セフトジジム	注	Watch							
		SBT/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン (1:1)	ワイスタール	注	N/R							
	第4世代 セファロスポリン系	CFPM	セフェピム	セフェピム	注	Watch							
	セファマイシン系	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾール	注	Watch					& HaM <sup>8)</sup>		
βラクタム系（モノバクタム系）		AZT	アズトレオナム	アザクタム	注	Reserve							
βラクタム系（カルバペネム系）		MEPM	メロベネム	メロベネム	注	Watch							

ご不明な点は薬剤課（内線：1131, 1133）上堀（かんぼり）へご連絡ください。

当院採用薬の抗菌スペクトル表（水色の範囲が感受性あり）

2025年10月 初版

当院で採用されている抗菌薬（外用薬を除く）に対して、一般的に有効（水色で塗りつぶした範囲）とされている細菌のスペクトル表を作成いたしました。外用薬に関しましては、各種ガイドライン等をご参照ください。  
抗菌薬選択に際しましては、各種培養の薬剤感受性や最新のアンチバイオグラム（電子カルテ揭示板）をご参照ください。最終頁に示す当院採用薬はスペクトルが不明なため記載しておりません。予めご了承ください。

1) 腸球菌の中でも、 <i>Enterococcus faecalis</i> に対する感受性を示しています。 <i>Enterococcus faecium</i> は多剤耐性であることがあるため、各種培養の薬剤感受性結果を基に、バンコマイシン（最終頁）などをご確認ください。													
2) 黄色ブドウ球菌（ <i>Staphylococcus aureus</i> ）の中でも、メチシリン感受性株（MSSA）に対する感受性を示しています。メチシリン耐性株（MRSA）は各種培養の薬剤感受性結果を基に、抗MRSA薬（最終頁）などをご確認ください。													
3) 連鎖球菌： <i>Streptococcus</i> spp.（spp.は”属”の意） / 肺炎球菌（肺炎レンサ球菌）： <i>Streptococcus pneumoniae</i>													
4) PEK： <i>Proteus mirabilis</i> , <i>Escherichia coli</i> （大腸菌）, <i>Klebsiella</i> spp. の略称。 （spp.は”属”の意）													
5) Non-PEK：PEK以外の腸内細菌目細菌のこと。 <i>Enterobacter</i> spp., <i>Serratia</i> spp., <i>Citrobacter</i> spp., <i>Providencia</i> spp., <i>Morganella</i> spp.など（ESCPMと略されることもある）。 （spp.は”属”の意）													
6) 緑膿菌： <i>Pseudomonas aeruginosa</i>													
7) 嫌気性菌の中でも、 <i>Bacteroides</i> spp. に対する感受性を示しています。 （spp.は”属”の意）													
8) HaM： <i>Haemophilus influenzae</i> （グラム陰性桿菌）と <i>Moraxella catarrhalis</i> （グラム陰性球菌）の略称。													
9) AWARe（アウェア）分類：世界保健機関（WHO）が定めた医療に必須の医薬品※のうち、抗菌薬に関し、薬剤耐性の影響を考慮し、適正使用推進を目指したツールの1つ。抗菌薬の使用を最適化するための目標を定めたり、モニタリングすることに役立つ。 ※医薬品の入手が困難な開発途上国における入手しやすさも考慮して選定された、基本的な医療に最小限必要な医薬品選定の際の指標。													
Access（アクセス）		：一般的な感染症に第一選択または第二選択として使用される薬剤。多くの患者に安全かつ効果的に使用でき、高品質、低コストで利用できる他、耐性化しても他の選択肢があるため、耐性化した際の不利益が少ない。											
Watch（ウォッチ）		：耐性化した際に取り得る他の選択肢が少ないため、限られた疾患や適応にのみ使用が求められる薬剤。不適切な使用が临床上重要な薬剤耐性菌の急速な拡大につながる可能性がある。											
Reserve（リザーブ）		：耐性化した際に取り得る他の選択肢が非常に少ないため、他の手段が使えなくなった場合の最後の手段として使用するべき薬剤。											
N/R（Not recommended）		：使用が推奨されていない薬剤。											

分類	系統	略語	一般名	商品名（採用薬）	剤形	AWaRe 分類 <sup>9)</sup>	グラム陽性球菌（GPC）			グラム陰性桿菌（GNR）			
							腸球菌 <sup>1)</sup>	黄色 ブドウ球菌 <sup>2)</sup>	連鎖球菌 <sup>3)</sup> 肺炎球菌 <sup>3)</sup>	腸内細菌目細菌		緑膿菌 <sup>6)</sup>	嫌気性菌 <sup>7)</sup>
										PEK <sup>4)</sup>	Non-PEK <sup>5)</sup>		
キノロン系	第3世代 キノロン系	LVFX	レボフロキサシン	レボフロキサシン	注	Watch				E <sup>4)</sup> は 感受性の確認を			
					錠	Watch							
	第4世代 キノロン系	STFX	シタフロキサシン	グレースビット	錠	Watch							
アミノグリコシド系		GM	ゲンタマイシン	ゲンタマイシン	注	Access		感染性心内膜炎などに 併用されることがある					
		AMK	アミカシン	アミカシン	注	Access							
マクロライド系	14員環 マクロライド系	EM	エリスロマイシン	エリスロシン	注	Watch							
					ドライ シロップ	Watch							
		CAM	クラリスロマイシン	クラリスロマイシン	錠	Watch							
				クラリス小児用 （院外専用）	ドライ シロップ	Watch							
	15員環 マクロライド系	AZM	アジスロマイシン	アジスロマイシン	錠	Watch							

ご不明な点は薬剤課（内線：1131, 1133）上堀（かんぼり）へご連絡ください。



当院採用薬の抗菌スペクトル表（水色の範囲が感受性あり）

2025年10月 初版

当院で採用されている抗菌薬（外用薬を除く）に対して、一般的に有効（水色で塗りつぶした範囲）とされている細菌のスペクトル表を作成いたしました。外用薬に関しましては、各種ガイドライン等をご参照ください。  
抗菌薬選択に際しましては、各種培養の薬剤感受性や最新のアンチバイオグラム（電子カルテ掲示板）をご参照ください。最終頁に示す当院採用薬はスペクトルが不明なため記載しておりません。予めご了承ください。

1) 腸球菌の中でも、*Enterococcus faecalis* に対する感受性を示しています。*Enterococcus faecium* は多剤耐性であることがあるため、各種培養の薬剤感受性結果を基に、バンコマイシン（最終頁）などをご確認ください。

2) 黄色ブドウ球菌（*Staphylococcus aureus*）の中でも、メチシリン感受性株（MSSA）に対する感受性を示しています。メチシリン耐性株（MRSA）は各種培養の薬剤感受性結果を基に、抗MRSA薬（最終頁）などをご検討ください。

3) 連鎖球菌： *Streptococcus* spp.（spp.は”属”の意） / 肺炎球菌（肺炎レンサ球菌）： *Streptococcus pneumoniae*

4) PEK： *Proteus mirabilis*, *Escherichia coli*（大腸菌）, *Klebsiella* spp. の略称。（spp.は”属”の意）

5) Non-PEK：PEK以外の腸内細菌目細菌のこと。*Enterobacter* spp., *Serratia* spp., *Citrobacter* spp., *Providencia* spp., *Morganella* spp.など（ESCPMと略されることもある）。（spp.は”属”の意）

6) 緑膿菌： *Pseudomonas aeruginosa*

7) 嫌気性菌の中でも、*Bacteroides* spp. に対する感受性を示しています。（spp.は”属”の意）

8) HaM： *Haemophilus influenzae*（グラム陰性桿菌）と *Moraxella catarrhalis*（グラム陰性球菌）の略称。

9) AWARe（アウェア）分類：世界保健機関（WHO）が定めた医療に必須の医薬品※のうち、抗菌薬に関し、薬剤耐性の影響を考慮し、適正使用推進を目指したツールの1つ。抗菌薬の使用を最適化するための目標を定めたり、モニタリングすることに役立つ。

※医薬品の入手が困難な開発途上国における入手しやすさも考慮して選定された、基本的な医療に最小限必要な医薬品選定の際の指標。

Access（アクセス）	：一般的な感染症に第一選択または第二選択として使用される薬剤。多くの患者に安全かつ効果的に使用でき、高品質、低コストで利用できる他、耐性化しても他の選択肢があるため、耐性化した際の不利益が少ない。
Watch（ウォッチ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が少ないため、限られた疾患や適応にのみ使用が求められる薬剤。不適切な使用が臨床上重要な薬剤耐性菌の急速な拡大につながる可能性がある。
Reserve（リザーブ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が非常に少ないため、他の手段が使えなくなった場合の最後の手段として使用するべき薬剤。
N/R（Not recommended）	：使用が推奨されていない薬剤。

分類	系統	略語	一般名	商品名（採用薬）	剤形	AWaRe 分類 <sup>9)</sup>	グラム陽性球菌（GPC）			グラム陰性桿菌（GNR）			
							腸球菌 <sup>1)</sup>	黄色 ブドウ球菌 <sup>2)</sup>	連鎖球菌 <sup>3)</sup> 肺炎球菌 <sup>3)</sup>	腸内細菌目細菌		緑膿菌 <sup>6)</sup>	嫌気性菌 <sup>7)</sup>
										PEK <sup>4)</sup>	Non-PEK <sup>5)</sup>		
ST合剤		ST	スルファメトキサゾール /トリメトプリム	バクトラミン	注	Access						&HaM <sup>8)</sup>	
				ダイフェン	錠	Access						&HaM <sup>8)</sup>	
テトラサイクリン系		MINO	ミノサイクリン	ミノサイクリン	注	Reserve							
					錠	Watch							
リンコマイシン系		CLDM	クリンダマイシン	クリンダマイシン	注	Access							感受性の確認を
				ダラシン	カプセル	Access							
ニトロイミダゾール系		MNZ	メトロニダゾール	フラジール	錠	Access							
ホスホマイシン系		FOM	ホスホマイシン	ホスホマイシン	注	Reserve							
				ホスミシン	錠	Watch							
					ドライシロップ	Watch							

ご不明な点は薬剤課（内線：1131, 1133）上堀（かんぼり）へご連絡ください。

# 当院採用薬の抗菌スペクトル表

2025年10月 初版

抗菌薬選択に際しましては、各種培養の薬剤感受性や最新のアンチバイオグラム（電子カルテ掲示板）をご参照ください。

9) AWaRe分類：WHOが定めた医療に必須の医薬品※のうち、抗菌薬に関し、薬剤耐性の影響を考慮し、適正使用推進を目指したツールの1つ。抗菌薬の使用を最適化するための目標を定めたり、モニタリングすることに役立つ。

※医薬品の入手が困難な開発途上国における入手しやすさも考慮して選定された、基本的な医療に最小限必要な医薬品選定の際の指標。

Access（アクセス）	：一般的な感染症に第一選択または第二選択として使用される薬剤。多くの患者に安全かつ効果的に使用でき、高品質、低コストで利用できる他、耐性化しても他の選択肢があるため、耐性化した際の不利益が少ない。
Watch（ウォッチ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が少ないため、限られた疾患や適応にのみ使用が求められる薬剤。不適切な使用が临床上重要な薬剤耐性菌の急速な拡大につながる可能性がある。
Reserve（リザーブ）	：耐性化した際に取り得る他の選択肢が非常に少ないため、他の手段が使えなくなった場合の最後の手段として使用すべき薬剤。
N/R（Not recommended）	：使用が推奨されていない薬剤。

分類	系統	略語	一般名	商品名（採用薬）	剤形	AWaRe 分類 <sup>9)</sup>	対象となる細菌，適応症など
グリコペプチド系		VCM	バンコマイシン	バンコマイシン	注	Watch	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌），MRCNS（メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌） PRSP（ペニシリン耐性肺炎球菌）， <i>Enterococcus faecium</i> （JAID/JSC感染症治療ガイド2023より）
		TEIC	テイコプラニン	テイコプラニン	注	Watch	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌） ※ダプトマイシンは肺胞サーファクタントで無効化されるため、血行性でない肺感染症には適さない。
リボペプチド系		DAP	ダプトマイシン	キュビシン	注	Reserve	（抗菌薬適正使用生涯教育テキスト第3版より）
オキサゾリジノン系		LZD	リネゾリド	ザイボックス	注	Reserve	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌） バンコマイシン耐性 <i>Enterococcus faecium</i>
				リネゾリド	注	Reserve	
				ザイボックス	錠	Reserve	
グリコペプチド系		VCM	バンコマイシン	バンコマイシン	散	Watch	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）， <i>Clostridioides difficile</i> 適応症：感染性腸炎（偽膜性大腸炎を含む）など
マクロライド系		FDX	フィダキソマイシン	ダフクリア	錠	Watch	<i>Clostridioides difficile</i> 適応症：感染性腸炎（偽膜性大腸炎を含む）など

【抗菌スペクトル不明なため未掲載の当院採用薬】（ ）内は（一般名 / 商品名）

■βラクタム系（セフェム系），第3世代セファロスポリン系■

：CTX（セフォタキシム / セフォタックス注），CFDN（セフジニル / セフゾン小児用細粒，セフジニルカプセル（院外専用）），CFPN-PI（セフカペン ピボキシル / セフカペンピボキシル錠），  
CDTR-PI（セフジトレン ピボキシル / メイアクトMS錠（院外専用），メイアクトMS小児用細粒（院外専用））

■βラクタム系（ペネム系）■

：FRPM（ファロベネム / ファロム錠（院外専用））

■キノロン系，第4世代キノロン系■

：GRNX（ガレノキサシン / ジェニナック錠（院外専用）），LSFX（ラスクフロキサシン / ラスビック錠（院外専用））

■アミノグリコシド系■

：KM（カナマイシン / カナマイシンカプセル），ISP（イセパマイシン / エクサシン注），SM（ストレプトマイシン / ストレプトマイシン注）

■抗酸菌症治療薬 / 抗結核薬■

：EB（エタンプトール / エプトール錠），RFP（リファンピシン / リファンピシンカプセル），INH（イソニアジド / イスコチン注，イスコチン錠），PZA（ピラジナミド / ピラマイド原末）

【引用文献】

・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト第3版（日本化学療法学会）

・AWaRe classification of antibiotics for evaluation and monitoring of use, 2025（World Health Organization）

・JAID/JSC感染症治療ガイド2023（日本感染症学会・日本化学療法学会）

・抗微生物薬適正使用の手引き 第三版（厚生労働省）

・抗微生物薬略語一覧表（日本化学療法学会）

・添付文書

ご不明な点は薬剤課（内線：1131，1133）上堀（かんぼり）へご連絡ください。

当院採用薬の抗菌スペクトル表の医療者向け公開について

公開対象	医療者
利用範囲	医療機関での利用・院内配布：可 無許可における二次利用：不可 改変：不可
免責事項	以下，ご承諾の上でご利用ください。 ・本スペクトル表は，表末記載の引用文献および当院のアンチバイオグラムを元に作成したものです。添付文書上の適応菌種や適応症と異なる記載がされている場合がありますので，あくまでも参考情報としての利用に留めてください。実際の処方におきましては最新の添付文書やガイドライン等をご確認の上，各医師の責任下で行ってください。なお，添付文書上の用法と異なる薬剤選択をされる場合には，各ご施設の規定に従いご対応いただきますようお願い申し上げます。 ・本スペクトル表の使用により生じた損害について，いかなる場合も当院は一切の責任を負うものではありません。

出水郡医師会広域医療センター